

2

メーリングリストの活用

(^^) メーリングリスト

共通のテーマや趣味を持った人がメンバーとなり、互いに電子メールをやり取りしながら情報や意見を交換するサービスをメーリングリストと呼びます。実際には、メンバーになりたい人がメーリングリストの管理者に自分のメールアドレスを一覧表（リスト）に登録してもらうことで、利用可能になります。

メーリングリストの利点は、1回の送信でメンバー全員に同じ内容のメールを送ることができるという点にあります。逆にメーリングリストを使って送られてきたメールに返信すれば、メンバー全員に同じ内容の返信メールが届きます。

電話での打合せとは異なり、メンバー全員が情報を共有できること、時間系列に従って情報が記録されることなどから、趣味だけではなく、ビジネスや研究の場に利用されています。

このようなメーリングリストの活用はコンピュータを使ったテレビ会議（電子会議）と似ているところはありますが、テレビ会議はメンバーが同じ時間にシステムの前に座らなければならないという時間的拘束があります。しかし、声や表情を確かめながら、会議を進めるためお互いの感情が伝わりやすいという利点があります。

また、インターネット上で不特定多数の人が自由に意見を書き込む電子掲示板（BBS）とも異なり、メーリングリストは基本的にメンバーのみの利用に限定されます。従って、電子掲示板のような荒らし行為（「電子掲示板」の項目参照）は起こりにくいことも特長です。

最近の生徒は携帯電話を使った一対一の電子メールには慣れていますが、メーリングリストの利用には、電子メールと異なるマナーがあることを情報モラルの指導の中で理解させることが必要でしょう。

(T-T) ネットバトル

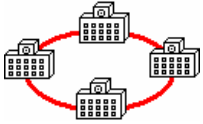
メーリングリスト上でメンバーどうしが誹謗中傷を繰り返すような状態に陥ることをネットバトルと言います。ほとんどの場合、最初はささいな言葉の行き違いから起こります。

電子メールを含め、情報通信ネットワークを使って行われるコミュニケーションは、そのほとんどが文字によるコミュニケーションです。文字によるコミュニケーションは、直接会ったり電話で話をしたりする場合と比較して、感情が伝わりにくいという特徴があります。手紙と比較すると気軽に情報交換ができるので、ついだけた調子になってしまい、ささいな言葉の行き違いが相手の心を傷つけてしまうということも起こりがちです。

また、必ずしも自分の本名を明かす必要がないというネットワーク社会の匿名性が、攻撃的な言葉を使うきっかけになることにも注意しなければなりません。

メーリングリストには、いくつかのマナーがあります。共通の話題やテーマに関心を持つ人が集まって成立するものですから、直接関係のない話題は持ち込んではいけません。また、メンバーの一部にしか分からないような話題を持ち込んではいけません。他のメンバーの気持ちを考えれば、これも当然のマナーです。さらに、個人どうしの情報交換に使うのもマナー違反です。そして、個人情報の取扱いや他人のプライバシーには特に注意を払わなければなりません。

どれほどネットワーク社会が発達し、コンピュータを使ったコミュニケーションが日常的になったとしても、ディスプレイの向こう側にいるのは人です。現実の社会と同様に、互いの人権を守る思いやりの気持ちを持ってコミュニケーションを図ることで、ネットバトルは避けることができます。



メーリングリストの利用

Firewallユニット(SVFW01)に組み込まれているシステムを使って、各学校独自のメーリングリストを作成することができます。意見交換の場として利用し、開かれた学校づくりや学校の活性化に効果的に活用できます。

学校情報ネットワークシステムのメーリングリストには、管理者により、さまざまな機能設定が可能です。具体的な管理や設定方法は、各学校に配布されているスカイメニューエデュケーションサーバの教職員用マニュアルを参照してください。

メーリングリストを利用して、よく起こるミスのひとつに、ある特定の個人にメールを送ろうとしたのに、うっかりメーリングリストに返信してしまい、意図した相手以外のメンバー全員にメールを送りつけてしまうというものがあります。その内容が個人のプライバシーに触れるものであったり、個人情報に関するものであったりした場合は、単なるミスでは済まされなくなります。学校情報ネットワークには、そのようなミスを未然に防ぐ設定(教職員用マニュアル「メーリングリスト管理者用操作ガイド」19頁)もあります。

メーリングリストを学校で運用する場合には、利用方法を十分に理解してもらうため、事前に講習会や研修会を開き、その受講者のみに非公開のメーリングリストの利用を許可し、公開メーリングリストは基本的に授業で生徒が使うという考え方もあります。また、メーリングリストの管理権限は、校長と担当者の2名に限定するなど、管理を厳重にし、個人のメールアドレスを不用意に提供しないために、たとえ教職員であってもメンバーのメールアドレスは閲覧できないようにしている学校もあります。

メーリングリストに参加しているメンバーのメールアドレスの管理について、特に注意しなければならないのは、コマンドメール(教職員用マニュアル「メーリングリスト管理者用操作ガイド」23頁)の取扱いです。コマンドメールは、決められたコマンド(命令)をメール本文に記述し、メーリングリストに送信すると、

さまざまな設定情報を添付ファイルで送信者に返信する機能です。メーリングリストに登録されているメンバー全員のメールアドレスをテキストファイルの形で返信するコマンドもあります。このような個人情報に関するコマンドメールを、教職員も含めて一般のメンバーが利用できるような設定は、慎重に検討する必要があります。管理者以外のコマンドメールの利用を拒否し、管理者にどのメンバーがコマンドメールを利用しようとしたかを通知する設定も用意されていますので(教職員用マニュアル「メーリングリスト管理者用操作ガイド」16頁)そのような設定を検討してもよいでしょう。

メールアドレスは個人情報のひとつです。学校の管理ミスで重要な個人情報が漏洩するという事態が起こることのないよう、メーリングリストの設定及び管理には十分に注意を払いましょう。

Q . 本校では、メーリングリストを活用して、PTA 会員向けの情報発信を行っています。つい先日、地域住民の方がこのメーリングリストに参加したいと申し出られました。このような場合、この人のアドレスをリストに加えてもよいのでしょうか。

A . 学校が地域住民の信頼に応え、家庭や地域と連携して教育活動を展開するため、情報を広く府民に公開し、開かれた学校づくりを推進することは各学校の課題のひとつでしょう。その意味で、地域との結びつきを深める情報発信は大切なことです。

しかし、PTA 会員向けの情報と地域に向けた情報はさまざまな点で異なっているはずです。今後、設置が進められていく学校協議会との関連も含めて、どのような情報を誰に向けて発信していくかについて、校内での検討をお願いします。

また、学校情報ネットワークシステムのメールマガジン機能を活用して情報を発信する方法もあります。



メーリングリストの活用

- 1 本時の位置 LAN 教室のパソコンの扱いに慣れ、日本語文字入力が適切に行えるようになったのちに行う。電子メールの扱いと利用方法については、習得していること。
- 2 指導目標 メーリングリストについて、コミュニケーションを図る道具（ツール）としての有効性、利用の際のマナーを理解させ、目的に応じた効果的な活用方法を習得させる。
- 3 目標行動 メーリングリストについて、マナーを守り、適切な表現方法を用いて、目的を持って活用することができる。
- 4 留意点 情報モラルの育成の観点から、次の事項を理解させる。
 - ・ ネットバトル
 - ・ 匿名性
 - ・ 文字によるコミュニケーションの特性
- 5 準備 授業用の公開メーリングリストを作成する。授業用のアカウントを必要な数だけ作成し、メールアドレスをメーリングリストのメンバーに登録する。架空のネットバトルを作成する。メーリングリストにいくつかのメールを送信する。

6 展開

| | 学習内容 | 学習活動 | 留意事項 | 評価規準 |
|----|-------------------------|--|--|--|
| 導入 | メーリングリストの仕組みと電子メールとの相違点 | メーリングリストについて学習する。 電子メールと異なる点を考える。 メーリングリストの活用方法を考える。 | プレゼンテーションスライドなどを用い、メーリングリストについて具体的なイメージを持たせる。 電子メールとの違いからメーリングリストが有効な場面について考えさせる。 | メーリングリストが電子メールと異なる点を説明できるか。 メーリングリストの活用場면을説明できるか。 |
| 展開 | メーリングリストのリスト表示画面 | URL を入力し、学校情報ネットワークのトップページ画面を表示する。 [メーリングリスト]をクリックし、授業用公開メーリングリストのリスト表示画面を参照する。 | | |

| | | | | |
|-------------|--|---|--|--|
| 展 開 | <p>Web メールに送信されたメールの参照</p> <p> メールリングリストへの投稿</p> <p> メールリングリスト利用の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 匿名性 ・ ネットバトル | <p>[Webメール]をクリックし、受信フォルダの内容を参照する。</p> <p>[新規メールの作成]をクリックし、宛先をメールリングリストに設定して、簡単なメッセージを送信する。</p> <p>[受信フォルダ]をクリックし、大量のメールが送られていることを確認する。</p> <p>ノートにメールリングリスト利用上の注意点を考える。</p> | <p>教材提示用モニターを用い、同じ内容のメールが生徒個人のメールボックスに配信されていることを示す。</p> <p>投稿メールの名前はニックネームでよい。</p> <p>不適切なメールがあった場合は、その場で、実際のメールリングリストで同じメールを送った場合の影響について考えさせる。</p> <p>ニックネームを使ったメールを例に匿名性について考えさせる。</p> <p>ネットバトルについて、事前に作成した架空のネットバトル例を利用して説明する。</p> | <p>メールリングリストへの投稿がスムーズにできたか。</p> <p>メールリングリスト利用の注意点について、その理由を自分なりに考え、説明できるか。</p> <p>メールリングリスト上でなぜネットバトルが起こるのかを説明できるか。</p> |
| ま と め | <p>まとめ</p> | <p>メールリングリストの適切な使い方を考える。</p> | <p>メールリングリストを使って情報を発信する際の、個人の責任について理解させる。</p> | <p>情報発信における個人の責任について自分の意見を述べることができるか。</p> |

